



赤れんが倉庫群  
提供：舞鶴市



丹波篠山市  
福住地区のまちなみ  
提供：兵庫県丹波県民局

## 「あっちこっち関西」キックオフ！ ～地方都市のイノベーションプロジェクトを応援～

当会が考える“2030年における関西のありたき姿”を示した「関西ビジョン2030」(2020年12月公表)。

その実現に向けた取り組みの方向性として掲げた「7本の矢」の一つ、「あっちこっち関西・イノベーションプロジェクト」でめざすのは、関西各地で特色あるイノベーションを育むエコシステムが構築されるよう、多様な主体による混じり合いや協業を促す仕組みづくりである。

今号では、事業のねらいや進捗状況、連携協定を締結した京都府舞鶴市や兵庫県丹波県民局をはじめとする各地の取り組みのほか、8月23日に開催したキックオフシンポジウムの模様などを紹介する。

### 「あっちこっち関西・イノベーションプロジェクト」とは

2019年の秋・冬から2020年にかけて、当会が12年ぶりとなる長期ビジョンの策定に向け検討を進めているさなか、新型コロナウイルス感染症の拡大により社会経済は混乱し、そのなかからさまざまな変化や新たな考え方が生まれてきた。そうした社会状況の変化もふまえた上で策定したのが、2020年12月に公表した「関西ビジョン2030」である。「関西ビジョン2030」では、“2030年における関西のありたき姿”のほか、その実現に向けた取り組みの方向性として「7本の矢」を示した。その矢の一つ、今後の新たな取り組みとして掲げたのが「あっちこっち関西・イノベーションプロジェクト(以下、あっちこっち関西)」である。

「あっちこっち関西」がめざすのは、企業や大学などの枠を超えた協業や研究開発の活性化につながるイノベーション・エコシステムの構築、そして関西各地におけるイノベーション創出や社会課題の解決に向けた多様な主体による混じり合い・協業を促す仕組みづくりである。この事業を打ち出した背景には、ビジョンを検討する過程で「コロナ禍によりデジタル化が進展し、テレワークやワーケーションなど働き方が変化するなか、これまでの都市部中心の発想を転換する必要がある」と考えたこと、また、政府においても地方創生、イノベーション創出に向け、従来の定住人口や観光などの交流人口に加え、地域と多様にかかわる「関係人口」の増加に向けた取り組みを重視していること、さらに関西の地方都市では、それぞれが抱える地域課題の解決に向け、産学連携のもと、起業促進、IoT化、MaaS、ワーケーションの推進などさまざまな取り組みが展開され始めていることなどがあった。

「あっちこっち関西」の具体的な事業として取り組むのは、新しいチャレンジを行う地方のイノベーションのモデルとなるプロジェクトに対し、当会会員企業をはじめとする企業との結びつけのほか、情報発信や連携先の拡大などに関して当会が連携・協力をを行うことである。これにより関西全体のイノベーション創出への寄与、さらには、

社会課題の解決や関西地域の発展などに対する経済界の貢献につなげていく。

## 初の連携先は、京都府舞鶴市と兵庫県丹波県民局に

### 各地のイノベーションプロジェクト

関西では文字どおり“あっちこっち”に産学官が連携した特色あるプロジェクトが存在する。当会では「あっちこっち関西」の本格的な実施に先立ち、各地で行われているプロジェクトについてあらためて調査した(表1)。そして、連携先の検討に際しては、観光振興や企業誘致のみの視点ではなく、①産学官の連携体制が構築されていること、②民間の力を引き出すプロジェクトであること、③企業との連携を広く求めているもの、といった点を重視し、個別企業への支援ではなく、地域全体のイノベーションに取り組む事業をターゲットとすることとした。

### 連携先のプロジェクトの内容とは

上述の視点で検討した結果、まずは京都府舞鶴市と兵庫県丹波県民局を連携先とし、協力しながら事業を進めていくこととなった。それぞれのプロジェクト内容を次に紹介する。

表1 各地で推進されているプロジェクト例

地域	テーマ	プロジェクトの内容
福井県	産学連携	「ふくいオープンイノベーション推進機構」のもと、産学官金が連携し、炭素繊維をはじめ、県内のものづくり企業の革新的な技術開発・製品化を支援。
京都府舞鶴市	SDGs	政府から「SDGs未来都市」の選定を受け、企業や大学等との連携により積極的に先進技術を活用し、社会課題の解決に取り組んでいる。
京都府与謝野町	農業のIoT化	ICTを用いた農業課題の解決に向けた産学官の取り組みを実施。丹後ちりめんの若手職人による伝承プロジェクトも実施。
兵庫県丹波地域	エコシステム	地域のイノベーション・エコシステムを構築するための、起業支援等を行う「シリ丹バレープロジェクト」を展開。
鳥取県	宇宙産業	鳥取砂丘を月面に見立てた実証実験などを通じて、宇宙産業ビジネスを産学官で創出する事業を実施。
徳島県神山町	人材育成	ソフトウェアを中心としたデザイン教育と起業家マインドを育成する全寮制の「神山まるごと高専(仮称)」を2023年4月に開校予定。



## 京都府舞鶴市



Coworkation Village MAIZURU 提供：舞鶴市

政府から「SDGs未来都市」に選定された舞鶴市では、「SDGs未来都市推進本部」を設置して全庁横断の体制を整え、まちづくりにAIやIoTなどの先進的な技術を活用して課題の解決に取り組んでいる。例えば、河川の防災システムのIoT化については、オムロン、KDDI、舞鶴工業高等専門学校と連携協定を締結し、河川のモニタリングシステムの開発を進めている。そのほか、農業や漁業にICT等を活用したスマート一次産業、京都舞鶴港スマート・エコ・エネルギーポート化推進等にも取り組んでいる。また、観光名所である舞鶴赤れんがパーク内にコワーキングスペースを設置（上写真）。市外企業からのワーケーションも募集し、参加企業に市内の学校での出前講座を実施してもらうことで、次世代育成にも役立っている。

## 兵庫県丹波県民局



廃校を活用したコワーキングスペース（芦田集学校）  
提供：兵庫県丹波県民局

兵庫県の丹波地域（丹波篠山市、丹波市）では同県の丹波県民局が中心となり、米国の「シリコンバレー」に丹波をなぞらえた「シリ丹バレープロジェクト」を推進している。同地域は、京阪神に近接しており大都市とも行き来しやすい一方、古民家など風情あふれる町並みがあり、そこに魅力を感じて移住する人が増えている。「シリ丹バ

レープロジェクト」は、こうした利点も生かして新たな交流を促し、丹波を起点として産業や製品・サービスのイノベーションを起こそうとする取り組みである。「シリ丹バレー推進協議会」のもと、地域産業のDX化、起業・創業・継業への支援、ワーケーションの推進等のプロジェクトが実施されている。また、神戸大学でも、学生等の実習拠点において研究・交流事業を進めるとともに、農村ビジネスの起業・継業促進のため、JR篠山口駅を拠点に「篠山イノベーターズスクール」を開講するなどの取り組みを行っている。

## 関西全体への波及をめざして

「あ っちこっち関西」の事業は、8月23日開催のキックオフシンポジウムで本格的なスタートを切った。会合では舞鶴市や兵庫県丹波県民局との連携協定書への署名を行った（詳細はP.5～6参照）。今後、下表（表2）の取り組みを中心に、両地域との連携・協力を進めていく。事業としては、まずはこの2地域に注力するが、地域や取り組みは順次追加していく予定である。

表2 具体的な取り組みイメージ

- 情報発信への協力
- 地域の課題を発信するセミナー開催
- 会員企業の社員等を講師やアドバイザーとして各地域に派遣
- 会員企業やスタートアップを対象とした課題発掘・交流を行うための視察会の開催
- 関西でのエコシステム構築をめざす「起業街道・関西プロジェクト」の取り組みの一環として、地方発のスタートアップが参加するオープンイノベーションフォーラムを開催
- 京阪神のスタートアップ支援機関・施設とのマッチング

どの地域での事業においても現地のニーズをふまえ、個別課題に協力することで、プロジェクトの拡大および関西全体への波及につなげていきたいと考えている。会員企業の皆さまにも地方でのイノベーション事業に関心を持っていただき、ぜひご協力いただきたい。（産業部 山下善寛）

# 「あっちこっち関西・イノベーションプロジェクト」 キックオフシンポジウム

2022年8月23日に開催したキックオフシンポジウムには、会場とオンラインによる視聴、合わせて約150名が参加した。開会挨拶に続いて行った連携協定締結では、舞鶴市とは木股昌俊副会長(ベンチャー・エコシステム委員会担当)が、兵庫県丹波県民局とは金花芳則副会長(兵庫県担当)が当会を代表して協定書に署名した。



## ◆開会挨拶 木股 昌俊 関経連副会長

関西各地には、イノベーションの「種」がたくさんある。本日のシンポジウムが、会員企業の皆さまがCSR、人材育成、オープンイノベーションの観点から地方都市でのプロジェクトへの参画を検討されるきっかけとなればうれしく思う。

## ◆連携協定締結



### 舞鶴市

連携項目  
 ・GX推進  
 ・DX推進  
 など



### 兵庫県丹波県民局

連携項目  
 ・DX推進  
 ・起業支援  
 ・ワーキング  
 スペース連携  
 など

## 取り組み紹介

### 多様な連携を生かした地方分散型社会の構築

多々見 良三 舞鶴市長



### シリ丹バレー構想の推進

今井 良広 兵庫県丹波県民局長



## 講演

### 関西版逆参勤交代が日本を変える

松田 智生 三菱総合研究所主席研究員



「逆参勤交代」とは、都市部で働く大企業の社員が地方でのリモートワークを期間限定で行うことで、地方創生と働き方改革を同時に実現する構想である。地域にとっては、経済効果の創出やコミュニティの担い手不足の解消につながる。一方、企業にとっては、働き方改革の推進や地方創生ビジネスの強化に加え、顧客や投資家からSDGsやESGの観点での評価の向上につながるといったメリットが考えられる。



## パネルディスカッション

進行：松田 智生 三菱総合研究所主席研究員

パネリスト：多々見 良三 舞鶴市長

今井 良広 兵庫県丹波県民局長

### テーマ① 地域に人材を呼び込むには

#### 松田氏

企業人材を呼び込むための取り組みや、これまでの取り組みから重要だと考えておられるポイントをご紹介いただきたい。

#### 多々見氏

まずは舞鶴市に来てもらうことが重要だと考えている。IT企業の支店が開設され地元の学校と結びついたことで、IT人材の育成・雇用サイクルが生まれた好事例がある。そのほか、第1次産業でのIT活用など、「地域の不便さの改善」を新たな産業の創出につなげている。

#### 今井氏

イノベーションの創出には、地域と企業が課題



を共有し、一緒に解決策を考えるプロセスが必要である。このプロセスを経て、ビジネスにつながったケースや、IT起業家が地域コミュニティーへの参加から地域経営を担うに至った事例もある。

### テーマ② 地域の課題解決に向けて

#### 松田氏

それぞれの地域で今後解決したい課題と、その解決に向け、企業に期待することとは。

#### 多々見氏

例えば、カーボンニュートラルに取り組もうとしても、地元企業だけでは実現が難しい部分もある。関経連の会員企業にも事業に参画してもらい、アドバイスなどをいただきたい。

#### 今井氏

地域のまちづくりには経営的センスが必要だが、地元の人々だけではその力が十分ではない場

合が多い。収益化の意識など、大企業の社員の方々が日常業務で培っている経営的センスを、地域課題の解決に発揮いただきたい。その経験は、企業の人材育成にもつながるのではないかと。

#### 松田氏

今後求められるのは、地域と企業をつなぐ接点やきっかけの場づくりと、そうして生まれたつながりのなかで、“地域の人が感じていること”と“地域外から来た人が発見すること”を持ち寄って、課題を設定していくことである。まずは実際に現地に足を運ぶことが重要だ。

## 閉会挨拶

金花 芳則 関経連副会長

ご紹介いただいた両地域のプロジェクトや「逆参勤交代」構想は、今後の関西の発展に欠かせない重要な取り組みであると認識した。将来的にはビジネスにつなげていくことを想定しつつ、まずはCSRの視点で、自社のリソースを生かして地方に貢献することができないか、ぜひ会員企業の皆さまから検討を始めていただきたい。

